

文化

沈黙に向き合う
沖繩戦聞き取り47年

石原 昌家

八重山の戦争マリアア貨
料館づくりのメンバーだっ
た保坂廣志琉球大学教授
わつ、第二の資料館改ざん
(当時)から突然「いま、
平和の礎を案内して、平和
祈念資料館に向かつて歩い
ているところだが、回廊の
すそそばに、巨大な兵器類
の展示作業中ですよ」と、
携帯電話による連絡が入っ
た。新資料館開館から1年
て、知事は11月までが任期

もたない、2001年1
月20日のことだった。「3
つ、第二の資料館改ざん
事件だ」と不安がよぎった。
第二の展示改ざん
1999年8月から10月
にかけて、異政をゆるがした
「資料館展示改ざん事件」
は、沖繩サミットを前にし
て、知事は11月までが任期



平和祈念資料館の広場での兵器の野外展示に
ついて報じる2001年1月21日付琉球新報朝刊

兵器を野外展示

監修委に諮られず

月後に原は改ざん作業を再
開したのである。
なせ、それを断定的にい
えるかという点、沖繩地元
新聞社と真議会野党議員の
エネルギーシムな取材と追
及によつて機密の展示改ざ
んメモが白日の下にさらさ
れていたのである。
その中に「1999年6
月16日〇〇〇〇の検討
結果の説明 エントランス
・不発弾」の魚雷展示
は、野外展示が良い(「争
点」沖繩戦の記憶)「社会
国民の眼から見た戦場の跡

元室長が
徹戒処

の私たちに既述のとおり、
評論社、2002年、27
展示監修作業を任すことに
した。「展示を含めて管理
運営の最終的な責任は知事
にある」という知事コメン
トに「私は第二の資料館
改ざん事件が起きるまで
あることを、本連載の第
83回(5月27日掲載)で予
想していた。私たちが監修委
員が任期切れになった10カ
月後に原は改ざん作業を再
開したのである。
なせ、それを断定的にい
えるかという点、沖繩地元
新聞社と真議会野党議員の
エネルギーシムな取材と追
及によつて機密の展示改ざ
んメモが白日の下にさらさ
れていたのである。
その中に「1999年6
月16日〇〇〇〇の検討
結果の説明 エントランス
・不発弾」の魚雷展示
は、野外展示が良い(「争
点」沖繩戦の記憶)「社会
国民の眼から見た戦場の跡

平和祈念資料館問題②④

兵器誇る展示「理念壊す」

戦場の悲惨さ伝えられず

悲愴さむなしさを表現した
オブジェ」というテーマに
しほつて兵器の残骸を山積
みにした「戦場跡」として
構成してきたのである。
その後、地中から発見さ
れた巨大兵器の酸素魚雷
や山砲も、「廃虚となった
戦場跡」というテーマの入
り口に山積みされた兵器類
のオブジェの構成展示の導
入部展示ということであつ
た。
つまり、資料館の前庭か
ら玄關にかけて置かれた兵
器類も、残骸の一部という
位置づけだった。決して
旧軍隊の兵器類を記念する
ような展示物ではなかつ
た。
すばやく情報をキャッチ
した沖繩地元紙はさっそ
く兵器の野外展示を記事に
した。2001年1月21日
の琉球新報朝刊31面には
「平和祈念資料館前広場、
兵器を野外展示」「理念壊
すもの」と批判噴出/監修
委員に諮られず」という見
出しの下、事の経緯を写真
入りで掲載している。
記事本文では「以前は、
地面に置かれていただけ
だったが、移動場所には展
品を鉄柱と鎖で囲い、地面
には砂利が敷き詰められて
いる。魚雷は敷地内のコン
クリートの台座に置かれる
など野外陣列の色合いが強
く、沖繩戦の研究者からは
『記念館として展示してお
も』目を疑った。靖国神社
の陸軍記念館の展示そつこ
りだ。旧資料館が兵器を陳
列して批判を浴び、住民の
視点による展示に委えられ
たが、逆転したかのようだ。
資料館や平和の礎の理念を
ぶち壊すもの」と憤つてい
た。
広がる兵器展示
これら野外兵器展示のメ
インは、巨大な酸素魚雷で
ある。「日本の秘密兵器海
軍艦」(小橋良夫著、学習
研究社、2002年)によ
れば、「日本海軍の夢、無
敵艦の(九三式魚雷)の
開発成功、海上戦法を根本
から変えた酸素魚雷の登場
場、弾力な秘密兵器の酸素
魚雷」などという小冊出し
をみただけでも、日本海軍
が分かる。
沖繩県が野外兵器展示を
開始したので、連動するか
のように03年、大里村(現
南城市)は村内で出土した
八九式十五種加農砲を修復
して、農村環境改善センタ
ーに設置した。説明板には、
この大砲の性能・所有した
部隊・戦闘状況が書かれて
いるだけで、靖国神社遊就
館に展示されている兵器の
説明と酷似している。防衛
隊が直撃を受けて、生々理
めになったことや部隊の戦
闘が地域に与えた影響は書
かれていない。
05年8月には、西原町立
図書館の正面左側に九六式
十五種榴弾砲を展示した。
沖繩戦で破壊された大砲を
修復して設置したという。
(筆者らの岩波DVDブッ
ク『オキナワ』、06年から
引用)。16年3月、平和教
育の拠点である二系数ア
チラガマの真上に「旧日
本海軍九三式発射魚雷二八
九式十五種加農砲」が麗々
しく設置され、「現在砲と
しては、靖国神社遊就館に
も展示されている」という
説明までつけてある。(16
年8月現在筆者確認)。兵
器を誇示しているかのよう
だ。
次回は10月後半掲載予定

「理念壊すもの」と批判噴出/監修
委員に諮られず」という見
出しの下、事の経緯を写真
入りで掲載している。
記事本文では「以前は、
地面に置かれていただけ
だったが、移動場所には展
品を鉄柱と鎖で囲い、地面
には砂利が敷き詰められて
いる。魚雷は敷地内のコン
クリートの台座に置かれる
など野外陣列の色合いが強
く、沖繩戦の研究者からは
『記念館として展示してお
も』目を疑った。靖国神社
の陸軍記念館の展示そつこ
りだ。旧資料館が兵器を陳
列して批判を浴び、住民の
視点による展示に委えられ
たが、逆転したかのようだ。
資料館や平和の礎の理念を
ぶち壊すもの」と憤つてい
た。
広がる兵器展示
これら野外兵器展示のメ
インは、巨大な酸素魚雷で
ある。「日本の秘密兵器海
軍艦」(小橋良夫著、学習
研究社、2002年)によ
れば、「日本海軍の夢、無
敵艦の(九三式魚雷)の
開発成功、海上戦法を根本
から変えた酸素魚雷の登場
場、弾力な秘密兵器の酸素
魚雷」などという小冊出し
をみただけでも、日本海軍
が分かる。
沖繩県が野外兵器展示を
開始したので、連動するか
のように03年、大里村(現
南城市)は村内で出土した
八九式十五種加農砲を修復
して、農村環境改善センタ
ーに設置した。説明板には、
この大砲の性能・所有した
部隊・戦闘状況が書かれて
いるだけで、靖国神社遊就
館に展示されている兵器の
説明と酷似している。防衛
隊が直撃を受けて、生々理
めになったことや部隊の戦
闘が地域に与えた影響は書
かれていない。
05年8月には、西原町立
図書館の正面左側に九六式
十五種榴弾砲を展示した。
沖繩戦で破壊された大砲を
修復して設置したという。
(筆者らの岩波DVDブッ
ク『オキナワ』、06年から
引用)。16年3月、平和教
育の拠点である二系数ア
チラガマの真上に「旧日
本海軍九三式発射魚雷二八
九式十五種加農砲」が麗々
しく設置され、「現在砲と
しては、靖国神社遊就館に
も展示されている」という
説明までつけてある。(16
年8月現在筆者確認)。兵
器を誇示しているかのよう
だ。
次回は10月後半掲載予定